

## 会議録（要旨）

件名	令和2年度 第2回亀岡市総合教育会議
日時	令和2年10月27日（火）午後1時30分～3時35分
場所	市役所8階 800会議室
出席委員	9人 桂川市長／石野副市長／神先教育長／関教育長職務代理者／江口教育委員／北村教育委員／末永教育委員／出藏教育委員／福嶋教育委員
欠席委員	なし
事務局出席者	15名 田中企画調整課長／佐藤企画経営係長 片山教育部長／國府教育部次長兼総括指導主事／ 亀井教育総務課長／伊豆田学校教育課長／谷口社会教育課長 山崎社会教育課人権教育担当課長／松永歴史文化財課長 桂学校給食センター所長／谷図書館長／鶴飼文化資料館長 海老原教育研究所長／中川教育研究所副所長／巻田教育総務課総務係長／
傍聴者数	1名

### 1 開 会

### 2 市長あいさつ

### 3 報告事項

#### ・学校規模適正化について

#### 教育長（説明要旨）

学校規模適正化の進捗状況について報告を行う。別院中学校ブロックでは8月6日にブロック協議会を開催し、別院中学校は南桑中学校に編入、小学校は小規模特認校制度の検証も行う中で、引続き学校のあり方を検討していく方向で進めていくことを提案した。保護者や地域に丁寧に説明をしてほしいという意見をいただいた。まず、西別院町に居住の小・中学校の保護者等を対象として9月25日に説明会を開催した。編入後のスクールバスについての質問等があり編入について前向きに捉えている保護者が多く、小学校についても何らかの動きを求める意見が多かった。東別院町では、以前から小・中学校ともに残して欲しい思いが強く感じられる。11月2日に東別院町で保護者向けの説明会開催を予定している。保護者、地域の声を聞いた上でできるだけ早く方向性を決定していきたい。

亀岡中学校ブロックでは、亀岡駅北土地区画整備事業区域の学校区を、昨年4回のブロック協議会を経て今年2月の臨時教育委員会で亀岡小学校区に決定した。

駅北区域は 162 区画が整備される予定で、今年夏頃から販売開始されたと聞いているが、現時点では小・中学校の通学者はまだおられない。

また、つつじヶ丘小学校から亀岡中学校に進学している地域についても協議しており、小・中一貫教育を進める上で校区の見直しをしていきたい。

昨年 12 月と今年 7 月 31 日につつじヶ丘小学校で保護者向けの説明会を実施した。小学校区を変更して亀岡小学校から亀岡中学校へ、中学校区を変更してつつじヶ丘小学校から東輝中学校への 2 つの案を提示し説明した。

11 月 11 日にブロック協議会を開催し、今年度中に方向性を決めていきたい。

東輝・詳徳中学校ブロックは、今年 4 月から校区見直しを実施したが、新型コロナウイルス禍の影響で実質 6 月からの校区変更となった。その後の子どもの様子や困り事について対象地域の保護者に学校を通じて文書で意見を伺った。これらの意見をブロック協議会で報告し検証していく。亀岡中学校ブロックでのつつじヶ丘小学校から亀岡中学校に進学している地域に関しては、東輝・詳徳中学校ブロックにも関係する為、亀岡中学校ブロック協議会後に東輝・詳徳中学校ブロック協議会を開催する予定である。

育親中学校ブロックでは、畑野町、宮前町、本梅町、東本梅町自治会に昨年度から今後の子どもの人口推移等を示し、令和 2 年度から協議を始めたいと伝えてきた。今回初めてのブロック協議会を 10 月 12 日に開催した。

児童数の推移から複式学級が畑野小学校、青野小学校、本梅小学校、いずれの小学校でも始まる状況や、学校規模適正化基本方針で示す小学校の統合あるいは小中学校一貫校の選択肢等について説明を行った。ブロック協議会の中では、仕方がない状況であることを認識していただき、今後まず保護者にも説明し意見を聞いていくという進め方を説明した。

保護者への説明会を 11 月 24 日本梅小学校、26 日青野小学校、27 日畑野小学校で開催していく。コロナ対策をとりながら丁寧かつ着実に歩みを進めていく。

## 市長

適正化について一定の方向性を示していただいたのは良かった。

保護者の中には先行きのことが具体的に明示されないと、今後、子どもにとって不安を感じる方があると聞く。一定の方向性を示したので、説明責任を果たしながら着実に進めていただきたい。

## 4 協議事項「教育施策の重点項目」について

### (1) 教育研究所を始めとした教育委員会事務局体制の整備について

#### 教育長（説明要旨）

教育研究所の在り方については以前から問われてきたところである。教育研究所は、現在教職員研修、調査研究、教育相談、不登校児童生徒を支援する適応指導教室の運営などを主として行っている。

今年度、新型コロナウイルス感染症対策でオンライン学習が注目されたが、亀岡市では今のところ Wi-Fi 環境等設備が整備できておらず、オンライン学習は行えていない。しかし、工夫しながら学習教材での動画を作成し、教育研究所からホームページに掲載、また学校でも独自に動画を作成しホームページに掲載した。学校によってはホームページを閲覧できない家庭には DVD を提供した。教育研究所では現在もプログラミング教育の教材を研究し、教員を対象とした研修を実施している。GIGA スクール構想は当初 5 年計画での整備となっていたが、オンライン教育の必要性等から国の構想では今年度中に整備することとなっている。全児童生徒、教員が情報機器を使用するため、教育研究所が主体となって研究していく必要があると思っているが、現在の体制では厳しい。今年度コロナ禍で教育委員会主催事業の大半が中止となり、延期となった事業についても規模縮小や時間短縮を余儀なくされた。これを機会に慣例的な事業を見直すことと合わせて事務局体制を見直している。現在所長が会計年度任用職員となっている。教育研究所を（仮称）かめおか教育プロモーションセンターとして位置付け、みらい教育リサーチ課と改組改称することで決意とインパクトを与えたい。最も重視するのは ICT 教育の推進で、学力分析・研究、人材育成、地域学習の推進、課題解決支援、発達・教育相談といった 6 つの役割を担い、3 つの L（リテラシー、リンク（他機関連携）、リーダーシップ）を目標とする。2 系の体制を想定しているが、構想を実現させるために専門的な人材の確保が必要となる。合わせて現在週 3 日の会計年度任用職員（校長経験者）を最低でも週 4 日にするなど、財政が厳しい中、人件費は上がるが、未来志向の教育を構築、実践していくために検討いただきたい。

## 委員

いい案だと感じる。教育界は大きな変革の時である。前回の会議でも話題になったが、GIGA スクール構想は学校現場から見ればかなり大きな内容である。ただ、今の学校現場では機器だけ導入されても生かされないだろうと危惧する。ICT の推進、外国語教育、プログラミング教育など、新しいことが多く入ってきている。亀岡の課題である学力の課題も当然進めていかなければならない。現状のままではどこかに無理が出ると危惧している。現在の教育研究所を更に充実させた組織にしていく必要がある。現在の人員ではこなせないと考える。人員の配置が必要であるが、他のところを減らしては他が回らなくなる。人員を増やすしかないと思っている。これからの教育への対応には必要なことと考える。

## 委員

この方向で進めることは賛成する。ただ、6 つのテーマがそれぞれに大きい。例えば ICT にしても色々な機器を使用して何を指すのか。使えるようになることが目的ではない。学力にしてもそうである。それぞれの事業をどう展開していくのか、誰が担うのかが決定的なポイントとなる。最初から出来上がるわけではなく、手の届く範囲から少しずつ広げていくべきである。市の中に頭脳的な組織があることは力強いが、それなりの人材が必要となる。

## 委員

先日、教育研究所を訪問した。府内で長岡京市と亀岡市にしかないという稀有な組織でその存在価値は大きいということを改めて感じた。ふるさと学習、サイエンスフェスタなど独自の取組は強みであるが、社会の状況が大きく変化している。新たな課題解決や学力向上に具体的なアプローチをしていくことが求められている。実現して社会的要請に応えられるようにしていただきたい。現行組織と改変組織が二重になることや、漏れ落ちがおこることのないようにしていただきたい。専門性に応えられる人員配置が必要と考える。

## 委員

家庭教育の原点を学べる場所、学校に行けない子ども達の受け皿として、教育研究所の担う役割は大きい。横文字すぎて少しついていけないが、未来的な感じで生まれ変わりそうな提案だと考える。指導主事が増員される意義は大きい。ICT教育を推進していきけるしっかりとした方にきていただければと思う。

## 委員

教育研究所では、濃い内容を少人数で対応されている。学力分析、研修、地域学習、発達教育相談、学びサポートととても子ども達に寄り添っておられ感銘を受けた。今後 ICT 教育の対応が増加すると今の人員数では無理があると感じている。GIGA スクール構想は単に機材を入れて使用するだけではない。教育に活用し、利用できるところまで持っていかないといけない。現場の教員の負担はとても大きい。サポートしていきける体制、学力向上の中核機関として亀岡教育のリーダーシップの役割を果たすものとして広げていってもらいたい。最初のスタートが肝心でそこでこけてしまうと、先に進めない。スタートの段階で専門的な要素の高い人材をきっちり配置していただいて亀岡の教育を発信していただきたい。

## 委員

市長は以前からソフトを考えてもらいたいと言っておられた。そこにお金を出すとも。それに対する答えがこの提案と思っている。学力向上を主軸に据えた質の高い教育、未来への挑戦、投資でありリーディングシティの一翼を担っていただきたい。ICT教育の推進に力を入れる。人材育成のところでは研修場所というイメージがあったが、研究がクローズアップされるといい。外国語教育とあるが、人権、いじめ、不登校、問題事象の対応として道徳教育も入れていただきたい。「道徳教育から自立した人間として他者と共により良く生きる力をつけることを目指す」を明文化して欲しい。プロモーション係と学校教育課の業務に重なった部分がある。しっかり分けていただきたい。プロモーション係は市役所の4階に持ってきてもよいのではないか。

## 副市長

意欲的な改革である。わからない部分を含めて話をさせていただくが、6項目ですで行っているものを引き継ぐものと、新しいものがどうなっているのかがよくわからない。①②は、これまでも一部実施してきた部分で既存組織の関係性も考慮した再編が必要になると考える。6つのテーマごとに効果があげられているが、これは効果だろうか。必ずしも効果が上がるものでもない。課題に対する対応があって

こそであり、最初から効果を求めるより目標として位置づけ取り組んでいくほうがよいのではないか。対象となるのは子ども、教員、学校と広範であり、誰に何を支援するのが、ごちゃごちゃしては運用する時にわかりにくく困ることになると思った。学校とセンターとの関係を動かしていく中で明確になる話で懸念している。

### **市長**

GIGA スクール構想は国の制度として亀岡市でも整備していく。進行状況と、ICTに関わる取組で誰が何をしているかという役割分担、プロジェクトチームの構成はどうするのかということ。また、外国語教育はALTが充足していない状態で、今年度はどういう状況となっているのか。現場とALTに意思疎通等ですれ違いがあるという話も聞いている。どういう想定をされているか聞かせていただきたい。

### **教育長**

端末の配置は年度末になる予定で、機器の使い方と活用方法を検討していくことは提案しているセンターの役割となる。授業に使うというところが浸透していない状況でまだ学校現場としては準備段階となっている。ALT 4名のうち2名がコロナで来日できていない。来日が3学期になる可能性もある。学校教育課でTTやALTとの打ち合わせなどは行っている。

### **市長**

ICTを活用した教育については、生徒に対するICT教育が始まるが、その前に教員に対して理解を深める取組ができるか、どのようにしたら効果的な授業ができるかが課題となる。教育委員会に人を入れればできるのかというところであるが、ICT推進にはある程度の能力が必要で人を配置するだけではダメだと思っている。どういった人材を投入していくのか、行政の中には無いノウハウが必要となるが考えを聞かせてもらいたい。

### **教育長**

専門性のあるGIGAスクールサポーターは企業にお願いする。割愛で入っていただく方には市全体の教育としてのICT活用を見ていただく。人は何人かおられるので声をかけていきたい。

### **市長**

教育長にお任せしていればいいではなく、提案を具現化するために私も考えていきたい。英語教育が今年度から小学5年生で開始されている。どんな状況となっているか。

### **教育部次長**

昨年度から担任が対応できるよう進めてきた。現在は、英語の専科教員（または支援員）と担任が教科書や視聴覚教材を使いながら指導している。

### **市長**

5年生と6年生で教え方も変わってくる。ALTの活かし方なども含めて形になっていかないと難しいのではないか。道徳教育は日本人としての心構えを身につけるもの。亀岡には梅岩先生の教えもある。どうしていくかは考えていかなければいけない。提案内容については細部を詰めていき、既存組織とのすみ分けや場所の話を含

めて検討すべきことがある。人員配置は全体で15名となっているが現状は。

#### **教育部長**

会計年度任用職員を含めると9名である。ICT支援員を委託で行うべく動き始めている。3~4校に1人が常時の体制を考えている。業者委託で25校あるので10名くらいの予定をしている。

#### **市長**

ICT支援員は先生に対するサポートを行うのか。担当課は。

#### **教育部長**

今年度は、環境の整備、来年度以降は活用の支援をしてもらう予定。国の補助も有る。

現在GIGAスクール構想の環境整備は教育総務課、学習内容は学校教育課、教材作成等については教育研究所の3つで所管している。

#### **市長**

教育総務課や学校教育課からの人員移管も考えていると思うが、市全体の人員枠もある。年度末に向けてスタート時点の体制を人材面の確保も含めて検討してもらいたい。

#### **委員**

場所が外になると情報が遅くなると感じる。4階にいる方がよい場合もある。

#### **市長**

教育研究所の地の利をどう活かすかである。

#### **委員**

教育研究所を動かすことは考えていない。市長も言っておられたが、ICT教育の推進にかかる人材については誰でもよい訳ではない。教育課題とつなげて考えられる人材が必要である。専門的に研究している大学の先生をアドバイザーとしてついてもらい定期的に検証してもらうことも2~3年は必要なのでは。教育研究所は、強みを生かして学校と教育研究所が連携しながらお互いに研究を深めあう統合性と先進性を持った組織として生まれ変わる必要があると考えている。

#### **市長**

教育研究所は学校現場と行政の中間的な役割を果たしていて、先生方の能力を引き出し活かしていく場である。だからこそ独立した形で設置されてきた。効率性からいえば庁内にあるのも良いかもしれないが、先生方の議論を深めるという意味でもあの独立した場所にある方がいい。行政としてしっかり関与していく必要がある。先生方が教育研究所をどう見ているかもあるが、教育のオープンなエリアとして活用していただければと思う。先生方からの提案も施策として取り入れていきたい。

#### **教育長**

教育研究所は府域の真ん中に位置しており注目を集める場所となっている。現場の課題に対しては4階の事務局が対応しているが、教育研究所は頭脳機関として関わってもらい解決していく体制としていきたい。失くしてはいけないと思っている。今これをしようという表立ったものはないが、慣例によることが多い教育行政をコロナのこともあり、見直す時期にきている。

## 委員

教育は媒介性が高い。教育研究所で考えたことが直接子どもに行くわけではなく、その間に先生がいる。先生には、異文化に対しての保守性がベースにある。ICTも異文化であり、異文化に対して向き合う側の下地がないと前に進まない。市長からの話の中に教育研究所と学校現場の間の媒介性がどうなっているかという問いがあったが、まさにそこかと思う。私は研究・リサーチという言葉には抵抗があった。リサーチのためには自分を相対化しないといけないからだ。しかし逆にそういうことがあるからなかなか現場でできないことを現場から離れた場所で問えるということもある。そういう場所を作ればいいと思う。そういった議論をレポートとして発表し外から批判を受けるようなことができればいい。ただ、そういうことをしていくためにはリサーチへと向かう文化をつくっていかねばいけない。現状あるものと異質なものをどう受け入れるか、しかし教育は媒介性が高いために時間がかかる。そういった方向に舵を切るのであればなおさら文化的な素地をどうつくっていくかが大事なポイントになる。ただ、文化はすぐにはできるものではない。ある程度のフレームを設定して育てないと実現しない。こういった方向性は大切であるが、その中で何を目指していくかという議論は必要である。最終的に具体の形はいろいろ変わっていくが、ずっと受け継がれていくのは文化である。そういうものが育つランドデザインがあればいい。

## 教育研究所長

教育研究所の改革について多くの意見をいただいた。学力分析・研究、人材育成、地域学習の推進、課題解決支援、発達・教育相談支援は今も実施している部分が多い。人員数や勤務日数で充実できればと思っている。ICT教育の推進とプログラミング教育の準備を含めて教育研究所で行っていきたい。現在、教育総務課と学校教育課で行っているGIGAスクール環境整備と子どもへの指導方法、今後出てくるソフトの入れ方等の問題や子どもたちが使用した時のトラブルへの対応など、多岐に渡る課題を総合的に考えていくことがセンターとしての重要な意義であり、内部の体制を作っていければと考えている。学力分析・研究、人材育成、地域学習の推進、課題解決支援では、現在の課題を分析しどうしていくべきかを改めて検討していく必要がある。発達・教育相談支援のうち、発達支援はあまりできていないが、その部分にも踏み込んでいく流れとなっている。スタッフを増強していただいて対応していくと適応指導も充実していくと考える。場所については、距離的なハンディは正直なところあるが、これからの時代ZOOM等ICT機器を活用することをしていかないといけないと考えている。

## 市長

重要な内容。市としても教育委員会からの提案として受け止めないといけない。人員のことも含めて一度検討していく。

## (2) 魅力と特色ある学校づくり推進事業について

## **教育長（説明要旨）**

学校からのチャレンジとなる事業。「亀岡の学校の特色は」と問われて出てくるものがない。昨年度6名の校長が退職され、今年度も多くの校長、教頭が退職される。管理職が大きく入替る時期になっていて、経験が少ない状態でいきなり管理職になる場合もある。現状の予算とは別の枠でできればと思っている。1学校に100万円という大きな額である。どういった企画をするかという検討が活性化につながる。企画のプレゼンテーションや精査には教育委員にも関わっていただき、対象事業を決定していきたい。

## **委員**

学校長会と教育委員の懇談会が毎年行われているが、教育長は、校長をされていたころの懇談会で「現場の声を聴いてほしい」とずっと言っておられた。肝いりの事業であると感じる。ぜひ取り入れていただきたい。市長に一点お願いがある。今年度修学旅行に行けなかった場合のキャンセル料が保護者負担にならないようにしていただきたい。

## **市長**

ふるさと納税を活用した学校応援事業を利用すれば、以前よりは自由度の高い財源があると考えている。どのくらいの寄附を受けているのか。

## **教育部長**

学校によるが、数千円から20～30万円となっている。

## **市長**

職員にもいつも「チャレンジ」を言っている。やる気になれば財源も含め確保していける体制となっている。先生方にもそういう意識を持っていただきたい。事業をするには財源がなくではできない。梅岩先生生誕地整備も、ふるさと納税を活用し2億円集めて実施予定で4～5年の計画としているが、1年で8千万円寄付いただいた。問題はやる気を喚起すること。内容が重要で手を挙げれば採択というのはよくない。知恵、工夫、成果を含めた広がりがあるものを期待する。後に何が残るかである。

## **副市長**

教育長の思いのこもった事業。校長を始めとした管理職が自分の色を出しリーダーシップをとり魅力ある学校づくりにつながる。

## **委員**

私は良いアイデアと思う。横並びの学校からそれぞれの色を出していく。公でありながら民間のテイストがある。手持資金がないからクラウドファンディング等という考えはあるが、公立学校にはそこまでの自由度はないのではないかと。学校の「やりたい」に対して地域から資金を調達できる仕組みが本当にあるのであればいいが、公なのですぐには無理だと考える。このアイデアは折衷案的な感じで横並びに風穴があげられる事業である。

## **委員**

現役の時にあれば良かったのに、と思える事業。10万円、20万円を確保するため

に色々していた。特色を出すのは大切。ベテランの教員の退職が多い中で若い先生方にこれまで培った指導力を伝えるには授業づくりや学校づくりを一緒にやるしかないと思っている。びっくりするようなことをしないと値打ちがでない。今、学校に求めていることへのメッセージになるし、波及効果も期待できる。ぜひ実現していただきたい。

### **委員**

PTAでも学校の規模により財源の規模が異なる。市からのプレゼントではないが、手を挙げたことに対する応援制度は素晴らしいと思っている。学校はお金がないとひしひしと感じている。校長から志があがっていくことは子ども達にとっても素晴らしいと思う。

### **市長**

学校だけでなくPTAや地域を巻き込んだ事業もあり得る。企画、学校の特徴、成り立ち、規模等を踏まえた提案内容が重要。来年度から実施するとなると1月位には審査が必要になる。スケジュール感は、実費で予算がつけられるようにスケジュール調整をしてもらいたい。

### **教育長**

令和3年度事業実施のスケジュールに沿って進める。待ち望んでいる学校であれば提案はすぐに出てくる。スピード感を持ってこのチャンスを生かして地域、PTAを巻き込んでやって欲しい。成果だけでなく経過も見ていきたい。コロナ禍でピンチをチャンスに変える新しいことを考えることは楽しい。守りの体制に入るのではなく、ともに物事を作り出すという経験が学校の特色につながると考えている。

### **教育部長**

1月の中旬から下旬が予算の最終段階となる。

### **委員**

小・中学校が対象となっているが、幼稚園は含めないのか。

### **市長**

すぐには決められない。保育所、こども園との兼ね合いもある。

### **委員**

選定された5校の校長だけが良かったと思わないようにしてもらいたい。上手く全体の取組にしてもらいたい。成果を選定されなかった学校にもアピールしてほしい。

### **市長**

各学校の提案次第だと考える。企画内容により結果として予算がついてくる。一度で終わるものではないという認識でいる。するのであれば5年位は続けていただきたい。成果をどう発信するのか、事業の内容を全体にどう共有していくのか考えてほしい。選定された学校の成果を聞いて来年度に向けて議論し、自校を見つめ直す機会になれば良い。教育長の思いをしっかりと伝えていっていただきたい。平たい部分で手をつないでいく時代だと感じている。

### **委員**

大学の研究費獲得のためのプレゼンで似たようなことをしている。予算も支出内容を細かく提出をし、報告書もかなり詳細に作成する。公費で事業とするのでその位

明細をつけてしっかりと共有ができるように対応していただきたい。義務教育の中でこういった事業はこれまで聞いたことがない。

**市長**

公金であるので、当然適正に進めてもらう必要はある。その認識も現場にしっかりと伝えていただきたい。

**(3) その他**

**教育長（説明要旨）**

市立小学校・義務教育学校の修学旅行等代替事業の予定について報告する。苦渋の決断で修学旅行等を中止した。代替えとして小旅行という形で3密対策を取りながら企画運営している。小規模校については合同で実施する等工夫をしながら実施していただいている。

**市長**

今年は残念であったが、違った形で新たな取組を進めていただいている。コロナは今年度だけで終わるとも限らない。今後、コロナ対策の中でどんな旅行が可能かを検討していただきたい。

**5 教育長あいさつ**

**6 閉会**